



路政春秋

土木の殻を破つて

技術家が

技術と云ふ象牙の塔に立ち籠つて居る土木技術者が時流に棹して土木報國聯盟と稱する團體を組織し國策の線路に飛び上つて活動する即ち今の非常時に技術官が今までの生活態度を續けていゝかとの内省から出發した問題です。會合は北支建設の技術的對策や、在來の技術者の養成方法の可否が論題となりこれらの點に就ては大學の先生や専門家の意見を廣く求めたいと考へてゐます、今集つてゐる六十餘名の若い人々は己を空うして國のために奉仕する考へで具體的な方針に就ては今後續々と意見が出る

管です。と關係者が語つたのを聴き大に快心の感を禁じ得ない。

餘りに都會的では！

セントルイスの繁華街で朝な夕な街頭に立つて新聞を賣つてゐる十四歳の子供が、或る日學校友達に「僕は牛や豚や羊を見たことがないよ」と漏らした事から、端なくもセント・ルイス市教育當局と動物園との間に大議論が持ち上り、文明國の惱みを曝け出したといふ笑へない滑稽話、さて事件は新聞賣のアルフオン・ソ・ロルド君の言葉を洩れ聞いた教師が、ロルド君の様な懼口な子供でもこんな事では由々しい一大事と市當局に報告した所から始まつたのであ

注

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

意

以下紛争關係者の言分を聞かう。

ロルド君「僕はお父さんお母さんに動物園に連れて行つて貰つた事はあります、そして牛に似た野牛、豚に似た野猪を見ました」と云ふ西洋の物語を傳え聞き土木でも教育でも地方自治でも餘りに都會的では本君と筆者へ話しかけたものがあつた。

橋梁の身賣とは事

實か

山口縣萩市の中央、東萩驛前から渡口町をつなぐ松本川架設の萩橋は頻繁な交通にも拘はらずいままは私有財産として放置されてゐる、同市の不思議の一つであるが、右萩橋は延長百六十メートル、幅員四メートル

ル半でかつて市内某有力者が東萩驛と渡口町をつなぐ交通の頻繁を豫想して私費で架橋したもので昨年頗る好條件をもつて萩市に身賣話が持上つてゐたが事變關係で意の如く進まず。いまもつて私有のまま放置されてゐるわけであるが、私有の取付道路延長四百米幅員四米をも添物として一萬二千圓で此長い大きな品物を賣却すとの譯は事實であらうかハテナ。

自治から自立、親和から一致—皇道を辿るべし

明治の初年板垣自由翁は絶叫して「世運の上進する人民の奮勵する、相須たずんばあるべからず……二千五百有餘年來の大變革に遭際し……我輩奮勵勸勉以て天下の元氣を維持し振起し相共に我が天皇陛下の御尊榮を増益し我日本帝國の福祉を昌盛にするを勉むる秋なりと……則宜しく自ら治

むるよりしてはじめ、もつて自ら立つことを務むべし」と述べて民衆を指導せられた、今や舉國一致、上下和合、相剋摩撻を消解し渾然歸一して空前の國難に對處すべき秋である、滿洲を支援し北支を指導し支那新政權を援庇して東亞和平の中軸たらんとするの秋、國民、自ら融和し協力共助しなればならぬ。國家力を背景とする官吏が徒らに肥羅剔扶罪人を創作するかの疑を懐かしめ國民をして恐怖せしむるが如きことがあつてはならぬ。眞意の邪淺に存するか、祖國愛の有りや無しや、善良なる國民なるや否を檢討せずして妄りに他を排撃するが如きことがあつてはならぬ。否寧ろ親しく意見を交換し同一國民として親和の途に出て相互に是非を正しくするの途に出ることが惟神の道を辿る行動であらう。徒らに大言壯語相剋の姿を顯はすことは不敬虔不親和の極みではなからうか市井の徒には疑なきを得ない。世の中が蛙聲に追従するこ

ととならぬ様注意することが喫緊事ある。話せばわかる事ぢやないかと信ずる。

音の神秘の扉が開かれた

獨逸伯林に留學中ヘルムホルツの下に音樂學と電磁氣學を研究された田中正平博士は世界の音樂界に在つてピアノやオルガンの如き固定調律鍵盤樂器では十本の指で便利に操縱し得る音鍵の数が限定せられるので演奏中指で適當な音を選出するのが非常に困難になるから西洋では四百年この方研究を加へたが未だ完成の域に達しない結局鍵盤樂器で和聲を如何に演奏したらよいかと云ふ問題が解決されないのに純正調オルガンを工夫し製作して全歐洲樂壇を驚倒せしめた、同博士の世界文化の上に印した足跡は實に偉大である。道路鋪裝工作の上にも此の巨歩を運ぶの偉人出てよと叫びたいことである。

ありやなしやの珍聞

奇譚(12)

○珍石梅林石 福井縣三方郡耳村の山地を斯學の世界的權威市川新松氏が跋渉調査した際に同村新庄に廣がる石灰山的一端「水晶山」の登り口で石灰岩に伴つて黑色に白梅の蕾のやうな模様のある奇岩を發見調査の結果梅林石(學名シヤルスタイン)と分つた。梅林石は輝綠凝灰石が石灰岩を含んだもので點々たる白斑が梅林を見るやうな觀を呈してをり、酸を注ぐと石灰岩が沸騰溶解し錐で刺したやうな無數の小孔を生ずる、今から四百萬年前噴出した輝綠岩の灰が集つて出來たもので成分は斜長石輝石、石灰石から成り分解すると粘性の土壤を生じ杉類の繁殖に適すると同翁は説明してゐるがこの石は耳村地方と同一の古生層である、南條郡宅長村方面でも同翁によつて發見された珍なるかな珍石。

○現はれ出たる赤さびの千兩箱 愛知縣渥美郡伊良湖岬村大字和地潜水夫間瀬利三郎さんが過般同村小鹽津海岸約五丁沖でなまこ漁中海底の岩礁の傍に妙なものを發見したので引揚げて見るとこれはなんと寛永通寶の塊り素麵箱より少し大きな木箱に入つてゐたものがそのまま錆と砂で固まり箱は壞れて無くなつてゐるが目方約十六貫といふ代物、村人たちは昔御用船が難破したものに違ひない、まだその附近には千兩箱が埋つてゐるかも知れぬなどと噂で持ちきつてゐる。

○石器時代の横穴世に出る 東京府下南多摩郡鶴川村熊谷の神藏重圓氏の屋敷内で今から千五百年以前の太古から中古にかけて我等の祖先民族が穴居集團部落を形成して平和な生活を楽しんでおつたと想はる横穴が發見された。府南地方には南村高ヶ坂にも石器時代の遺蹟はあるがこの御藏家地内のは現在水田になつてゐる窪地を四圍にめ

ぐらした圓形の丘の東南西三方傾斜面に横穴が掘られ庭の手入れなどによつて發見されたその横穴の数は現在までに三十穴もありいづれも石壘で三壘敷から大きいのは八壘敷位の廣さで其昔我等の祖先は東南西に廣げた日當りのよい高壯なその「樂しき我が家」で如何に平和な夢を見てゐたことか? この穴居部落附近からはまづ頭蓋骨その他の人骨が掘り出されたがいづれも大きく考古學者等は「恐らくこの穴居民は六尺豊かな人ばかりではなかつたらうか」と驚いてゐる。又發見される石器などを見ても極めて粗末なものから次第に巧妙となり果ては簡單な裝飾さへ施したものでありなほ横穴の入口には防水、防寒のため或は外敵に備へるためにか扉まで付けた跡があり、又直刀や寶石の「まがたま」などの外朱塗りを施した石器などが發見されたのを見ると、この穴居部落には相當高貴な人も住み、また太古から中古に至るまで相當永

くその土地に人が住んでゐたことが窺はれる。

○珍獸コアラ 一生涯木の葉ばかり食べて水といふものを一滴も飲まないといふ珍獸の標本がこの程東京帝大理學部動物學教室に濠洲から送られて来て、同學部の標本陳列室に飾られたが、この動物は「コアラ・トリーベアー」(袋熊)と呼ばれるもので、木登りが得意、「見毛織物の裂地細工の様な可愛らしい動物である。

このコアラ君は濠洲の東南部に棲息し、體長は約三〇釐(約一尺)位、形は小熊に似てをり、歐米人は愛玩用としてゐるが餘り長生しない、食物はゴムの樹の葉または花、その他野菜を食する。

その形態を見るに頭は小さく、耳はぼゞ三角形で比較的大きく、外縁には長毛がある、眼は小さく、四肢は短く、ほゞ等長で五本の趾には長い黒色の爪が生えてをるは木登りするのに都合よく出来てゐる。生殖

時期以外には單獨に棲み一回一匹の仔を産む、生れた仔は親の香に長い間おぼさつて生活するといふ可愛い動物である。

○黒田長薄公の諭告書 福岡縣八幡市疋田千代氏家から廢藩置縣の發令で民心動搖を防止する爲藩民に發した木版刷の諭告書が發見された、其の文に曰く

福岡縣の人々は皆我累世の舊友なり、故に同縣の風聞悪しき時は東京において人前恥かしく、またその風聞よろしき時は自ら面目を施して集中にも肩を廣まるべき勢なり、如何にも縣民の良惡は一直に我最前の徳不徳を今日に現すわけなり、然に近來は縣民の惡評聞かず、殊に渡邊縣令の入部されて以後よろしき風聞も聞え、我頗る東京において面目を施しめたるに、この度計らずも御臨幸の恩寵を蒙り奉ることゝなれり、然らばこの恩寵は全く縣民の心得方によるしきより出たる賜物といふべし。我最後にこの地にあり

し時多病不束にして恩を縣民に施すこと能はず難儀をかけたることも多かりしに今に至りてかゝる有難き賜物を得たるこの我縣民に對して洵に謝するところを知らざるなり。そも、今の縣令は當世に稀なる人物にて余の信ずるところなり、朝廷畏くもこの人をもつて我舊友に下し給へること我輩において如何なる幸ぞや、故に縣民この人の指圖に従つて、いよいよその行狀を正しくその方向を明かにして朝威を逾奉せば我長くその恩寵を保つを得んこと必ずなり、我今、年六十四歳の年寄にて鬢髮共に白きこと霜の如し天人も若しその舊交を忘れずしてよく老人のこの一言を守らば我死するとも消ゆることなかるべし、我が舊友よそれ努めよや。

明治八年三月 從四位 黒田 長薄